

たまいたさ 川柳



花見

巻頭言

必要悪ということ

願法みつる

無責任かつ勝手な素人考えを述べさせて頂く。人間と神（ゴッド・カミ）あるいは仏との関係論なのだ。

地中海や東欧で生まれた神（ゴッド）と人間との関係の在り方と、インドや東南アジアで生まれた仏と人間とのそれには、根本的に差異があると言えないか。

ゴッドと人間とは別の存在であり契約の関係にある。善と悪には厳格な規範があり、人間の営みにおける必要・不必要の判断は、裁判的判断に基づくようだ。

一方、仏と人間とは仲間意識（適当な表現ではないかもしれない）の存在であり、善と悪の関係は建前論的で論され、必要・不必要の判断はフアジーである。

法然は、飲酒は罪かとの問いに対して、「まことはのむへくもなければ」と、この世の習い」と対応している。飲まないにこしたことはないが、この世の習慣なのだから仕方がないじゃろう・と。これは必要悪と言うことではないか。そこには、「仏も昔は人なりき、我等も遂には仏なり（梁塵秘抄）」という宗教観があるからだろう。日本人は、柔軟に（適当に）必要悪を判断する。神道で言うカミにも、やはり仏教的な匂いがする。

日本人の処世術はまさに柔軟である。そんな日本文化が、世界的に見直されているとは面白いではないか。

日日是好

願法みつる

ゴルゴダの丘にアラブの砂嵐

恨み節水に流せぬ砂漠の地

禿頭の神の姿の無い不思議

見廻せば逆説もある進化論

神代から進んだ距離はただ一歩

十の内九の自分は利口者

中国の酒は覚悟で口を付け

四本で足らぬ政治の馬の足

お爺さんそこは歩道じゃありません

平成27年

4月号 (No.665)

日川協加盟